

私たちの西地域

《発行》
西地区
区長会

手賀野(手賀野上区, 第1区, 第2区, 会所ヶ丘区)

駒場(第3区, 後田区, 松源寺区, 大峡区, 共栄区, 第4区, 第5区, 西ヶ丘区, 大平区, 山手区, 桃山区, 第6区, 第23区)

駒場「環境センター」のごみ処理が今、黄色信号です！

《搬入ゴミが増加しています！*物を大切に*使えるものは繰り返し*ゴミの再資源化 ゴミ減量を》



西地区環境出前講座 (区長会主催)



現在も閉鎖整備が続く旧最終処分場



環境センターの増加状況

- ◆ゴミの搬入(可燃・不燃・大型)
 - 平成30年度: 23,615t
 - 令和元年度: 24,016t
- ◆最終処分場 埋立て実績
 - 平成30年度: 2,356t
 - 令和元年度: 2,424t

現在、第三次「中津川市環境基本計画」に基づいてゴミ減量、再資源化が進められています。しかし、環境センターの最終処分場は埋め立てを開始してから約16年が経過した現時点で、最終想定量の約44.5%になり、残る稼働期間はわずか10年となっています。

環境センターの各処理施設と最終処分場を受け入れる中津西地域としても、家庭からの大型ゴミなどが増加傾向であることや、現在も旧最終処分場(以前の埋立地)の閉鎖に向けた整備が続いている状況を改めて考え、強く『家庭ゴミ減量化』を全市民に発信します。市も近隣市と広域で協議会を立ち上げて、新たな施設を作るための枠組みを作ることを目標に動き始めました。

区長会連合会ではゴミ減量化と共に、地球温暖化対策のための標語と地区ごとに具体的な取組内容を決め、市民の皆さんに呼び掛けていくことになりました。

●西地区の標語と目標は次のとおりです

中津西地区の標語 「家庭の省エネ対策積み上げて 地域から温暖化防止」

地区別目標① ゴミ出しルールを守り、リサイクルや物を大事にしてゴミを減らす

地区別目標② 節電と節水を意識し、取り替えるときは省エネ型にする

地区別目標③ 近くは徒歩や自転車利用、車の運転はエコドライブにつとめる

●市政懇談会に代わる要望書を市（定住推進部）へ提出しました

コロナ禍で令和2年度の市政懇談会が中止になったことから、西地区区長会では地域内の課題等を集約し「要望書」としてまとめて市へ提出、その回答がありました。

【要望内容】

1 協働のまちづくりについて

(1) 活動拠点の整備

地域課題への対応、人づくり、地域づくり、交流の拠点としての機能を果たす大切な場が無い場合、西交流センター（仮称）を早急に実現されたい。手賀野公会堂を公民館として位置付けて整備することも検討されたい。



【回答】まちづくり活動を行う拠点施設として令和3年度から利用できるように勤労青年ホームの調理室を改修するが、新たな西交流センター（仮称）の整備は、現在のところ予定していない。※4頁に関連記事
手賀野公会堂については、公平性の観点から公費で整備することは困難。市の自治会集会施設整備補助金の利用が可能と考える。中央公民館を地区の公民館としてより使いやすい施設としていく。

なお、手賀野公会堂の整備としては、市の自治会集会施設整備補助金の利用が可能と考える。

(2) 地域一括交付金の見直し

依然として市内各地域の金額に大きな差があるため、特に人口割による配分を増やされたい。

【回答】現行の均等割(80%)＋人口割(20%)の配分が最適と考えるが、他地域からも意見が出れば見直しを行う。自主的な環境整備への交付金を令和4年度から配分対応する。地域まちづくり協議会が活動団体を組織し「がんばる地域サポート事業」を活用する傾向にあるため、集約等の検討が必要と認識している。

2 リニア関連事業の推進について

(1) 地域住民の安全確保等への対応

市は、地元住民が危惧することをしっかり受け止め、生活を守るという大前提に立ってJR東海と協定書（確認書）を取り交わし、実行について随時チェックするとともに、状況を丁寧に広報されたい。

【回答】工事車両の運行については、各事業者が施工業者に対し交通安全対策を徹底するよう、指導する。一部の路線や交差点に工事用車両が集中しないように「中津川市リニア中央新幹線に関する工事調整会議」等により調整を図り安全確保や生活環境への影響の低減に努め、工事や交通規制の情報について、市ホームページ等を活用しお知らせしていく。

(2) 東濃東部都市間道路の整備

桃山工区は、小中学校や高校への通学の安全確保、中心市街地の活性化等に重要である。市は整備効果の高い区間であるとしているが、住民の移転も出るので早く事業の位置づけをされたい。

【回答】現在、国道257号から濃飛横断自動車道までを優先して進めており、桃山工区（桃山大橋から後田橋の区間）は、少しでも早く事業化できるように取り組んでいく。

3 安全に暮らせる環境の整備について

(1) 河川改修及び雨水排水対策

前川の河川改修

青木斧戸線道路工事や用途地域の変更もあって、更に店舗や住宅の開発が進むことが予想されるので、早期に改修されたい。



【回答】管理者である恵那土木事務所に進捗の要望を継続していく。用地補償については土地開発公社を活用した用地取得に着手するよう、提案していきたい。

前川等の浚渫(しゅんせつ)

津島橋上流から米田橋に至る箇所において、速やかに市が県と調整して対応されたい。後田川や京田用水、中津川でも同様の対策を求めらる。

【回答】恵那土木事務所が前川の浚渫を令和3年2月以降に予定しており、現地確認しながら箇所を決定していく。(他の河川も必要な箇所があれば順次検討)。市が管理する河川も対策を検討していく。

地域の発展にあった面的な排水路整備

河川だけでなく用水路も含め、地域全体の状況把握や今後の発展予測のもとで、しっかりとした対策をされたい。

【回答】市内全域の排水路の対策は困難。緊急を要する場所等は、補修等の対策を行っていく。

薬師橋の架け替えと川幅拡幅

前川と後田川の合流付近では川幅が狭く、特に薬師橋の橋げたを支える岩がネックになって流木等による氾濫が危惧される。県と連携し、抜本的な対策を早期に講じられたい。

【回答】何度も要望があり、橋上流左岸の岩破碎等の対応を恵那土木事務所で行っている。引き続き要望を行っていく。橋脚が河川に既存する岩盤であり、岩破碎のためには薬師橋の架け替えが必要なため、地域で工事期間中の通行止め等の検討をお願いしたい。

(2) 青木斧戸線の建設促進及び接続する市道の改良

手賀野斧戸までの整備

現在、工事は第1区の中西地区までになっているが、斧戸までの計画遂行の予定を示されたい。

【回答】現在施工中の青木斧戸線やリニア関連事業等の事業を優先して行っており、事業計画の予定は無い。これらの事業が完了した後、他の道路整備事業との優先順位を決めて事業化を検討していく。

市道改良

青木斧戸線の取り付けを進めている市道は道幅が狭く、東側の4叉路も狭い。早期に改良されたい。

【回答】取り付け道路(交差点)については本線完成後の交通状況を見ながら検討していく。



(3) 通学路への公衆用トイレの設置

朝夕、通学路の安全安心見守り活動を行っているが、通学途中の児童が時折、生理現象を催して緊急対応として隣接する住宅にお願いする事例が多く発生している。秋葉神社付近には、青木斧戸線の道路工事により残地となる部分で公共用地があり、市の支援も得ながら「青木の杜公園」として地元自治会で整備を進めているが、市による公衆トイレの設置を強く要望する。

【回答】トイレを設置することは考えていない。青木斧戸線道路工事による残置部分について、地元自治会が進めている整備へ支援出来ることは検討していく。

●リニア工事等質問書を市(リニア都市政策部)へ提出しました

工事による発生土の運搬ルートや地域住民の生活への影響など、疑問点や危惧される次の事項について質問しています。

- 1、JR東海と工事用車両の通行等に関する取り決め内容
- 2、国道257号「追分交差点」を通過する運搬ルート対策
- 3、朝夕の交通渋滞時の工事用車両の通行時間
- 4、通勤者、児童や生徒の安全確保に対する考え
- 5、JR東海が提案したルート案についての市の考え方
- 6、地域住民への説明



●まちづくり活動拠点が手賀野地内の勤労青少年ホーム（サンライフ隣接）に整備されます

西地域には、青木斧戸線をはじめリニア関連事業などの大きな事業があり、その一方では、環境センターや下水道処理場があることによって、市民全体の暮らしも支えています。

しかし、約1万1千人の住民が暮らしている西地域には、他の地域にある交流センターや公民館（出先事務所）が無く、活動拠点の確保は大きな課題でした。

令和2年10月に西地区区長会が「交流活動拠点整備に関する要望書」を市へ提出し、同年12月の補正予算で、勤労青少年ホーム1階の北西角にある調理室（約46㎡）を改修して活動場所とするための費用が計上されました。市と事業者で工事の打合せをしています。

（改修工事：令和3年3月末終了予定）



整備場所は1階の左角(調理室だった場所です)

【改修内容】

カーペット、ブラインド、エアコン設置、調理台等撤去など
※通信環境整備やコピー機等の備品配置などは実現しませんでしたので、地域一括交付金などでの対応を検討しています。

【中津川市勤労青少年ホーム】

所在地 中津川市手賀野 172 番地

※三菱電機ライフサービス株式会社中津川支店が隣接のサンライフと合わせて指定管理者になっています。(生涯学習スポーツ課所管)

●域学連携（西地区区長会と中京学院大学）からまちづくり

平成25年に締結した市と中京学院大学との連携に関する協定書を踏まえ、中津西地区区長会は大学と互いに連携し、大学が持つ高度で専門的な教育資源を地域社会に還元することで西地域の課題解消を図るとして、覚書を締結しました。

【協力内容】

- 1) 継続的な会議の場を設けること
- 2) 地域活性化に関する情報の共有と提供を図ること
- 3) 各種事業へ助言を行うこと
- 4) その他、目的達成に必要な取り組みを推進すること



中京学院大学と覚書を締結(市役所にて)

今までも手賀野地域で、花飾りや公園清掃などの地域交流が行われてきましたが、これを機に西地域全体として、少年野球や地域での三世代交流、イベントやサロン、地域の魅力発信、若者の視点でまちづくりなど、お互いの理解と協力で進めていきたいと思ひます。

